

第1章 計画の基本的事項

1 計画改定の背景

本市では、市を取り巻く環境に関する様々な課題に対応するため、平成19年10月に越前市環境基本計画を策定し、平成29年3月には越前市環境基本計画の改定(以下、「前計画」という。)を行いました。以降、先人が守り育ててきた本市のすばらしい環境とそこからもたらされる歴史、文化、伝統のものづくりといった恵みを再認識し、これらをさらにより良い形で次の世代に継承するための取組みを進めてきました。

一方で国際目標である持続可能な開発目標(SDGs)*やパリ協定*の実現に向けた機運の高まり、脱炭素社会*の構築やマイクロプラスチック*対策、食品ロス*の削減など様々な環境に関する新たな課題への対応が求められています。

特に、平成27年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、この目標達成に向け、国は令和2年10月に「2050年までに、温室効果ガス*の排出を全体としてゼロにする」ことを宣言しました。

本市では、新たに整備される北陸新幹線越前たけふ駅周辺で持続可能なまちづくりを進めるとともに、令和3年8月には脱炭素社会の実現に向けて2050年までに二酸化炭素*排出量実質ゼロを目指す「越前市ゼロカーボンシティ宣言*」を表明するなど、未来の越前市を大きく変える取組みが動き出しています。

こうしたことから、前計画の計画期間終了を踏まえその達成状況を確認するとともに、本市の環境の現状を改めて把握した上で、今後の取組みや方策を示した越前市環境基本計画(以下、「本計画」という。)への改定が必要となっています。

2 計画の目的

本計画では、脱炭素社会の実現に向けた都市づくりを重点項目として位置付け、市民・事業者・行政が一体となり進めていきます。

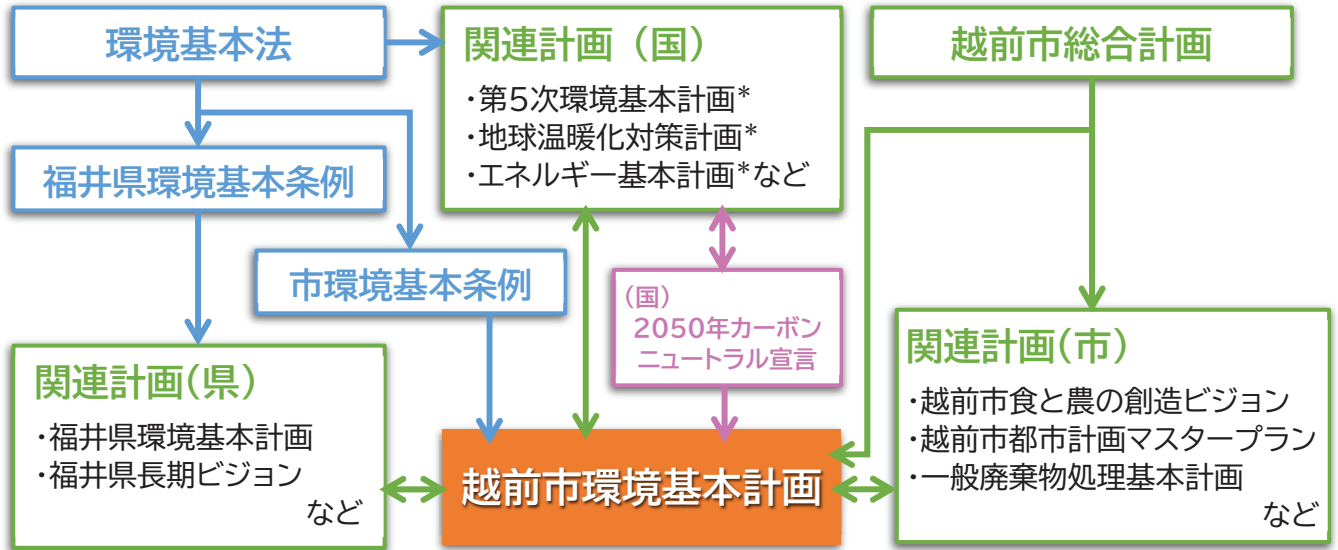
本計画を通して、省エネ・省資源を意識したライフスタイルの実践や豊かな自然環境の保全・再生に関する活動を行うなど、私たち一人ひとりが積極的に環境問題に取り組むことで、環境への負荷の少ない持続可能な社会*を構築し、人にも生きものにも優しいまちづくりを目指すことを目的とします。

3 計画の位置付け

本計画は、「越前市総合計画」を上位とする環境面の総合的な基本計画に位置付けます。

また、「食と農の創造ビジョン」や「一般廃棄物処理基本計画」などの各種計画、国や県の関連法令や計画などと連携を図りながら計画を推進します。

なお、本計画は、地球温暖化*対策の推進に関する法律*(平成10年法律第117号)に基づく地方公共団体実行計画(区域施策編)としても位置付けます。



4 計画の期間

本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

年度	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)
計画期間	計画期間 5年間					次期 計画期間

5 越前市の概要

(1) 位置・地勢

本市は、福井県のほぼ中央に位置し、市域北側が鯖江市と越前町に、南側が南越前町に、東側が池田町に、西側が越前町と南越前町に接しています。

本市の市域面積は230.70km²で、県面積の約5.5%を占めています。本市は、東部を越前中央山脈、西部を丹生山地、南部を「越前富士」と呼ばれる日野山などの400～700m級の山々に囲まれており、その中央に武生盆地が開け、日野川が南北に貫流しています。

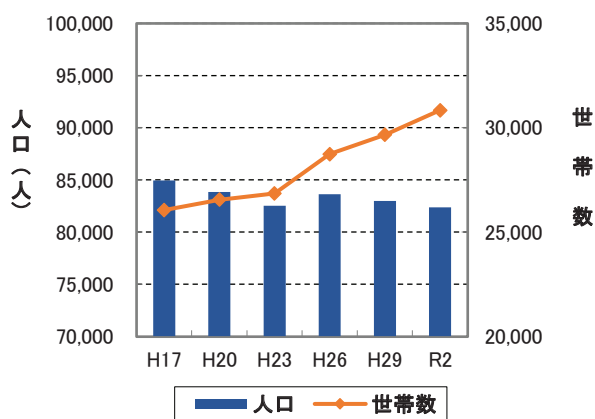


位置図

(2) 人口・世帯数

本市の総人口及び世帯数は、令和2年4月現在で82,363人、30,829世帯となっています。総人口については、平成23年から平成26年にかけて一旦増加したものの、以降は減少傾向となっています。一方、世帯数については、増加傾向にあります。総人口に対する世帯数をみると依然として核家族化が進んでいることがうかがえます。

年齢別構成比をみると、15歳未満の割合は年々減少する一方、65歳以上の割合は年々増加する傾向にあり、令和2年には15歳未満が12.7%、65歳以上が28.8%と少子高齢化の進展が著しい状況です。

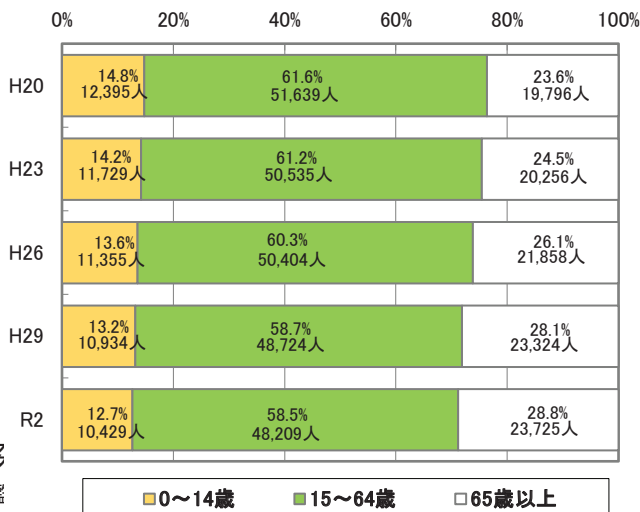


人口及び世帯数の推移

資料:越前市統計年鑑

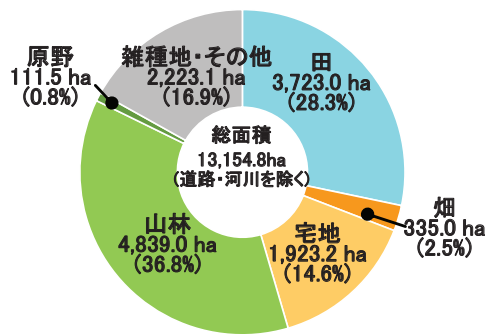
年齢別人口構成比の推移

資料:越前市統計年鑑



(3) 土地利用

本市の市域面積23,070haから道路・河川を除いた面積は13,154.8haであり、うち36.8%を山林が占めています。次いで28.3%を田が占めており、宅地は14.6%となっています。



地目別土地利用面積

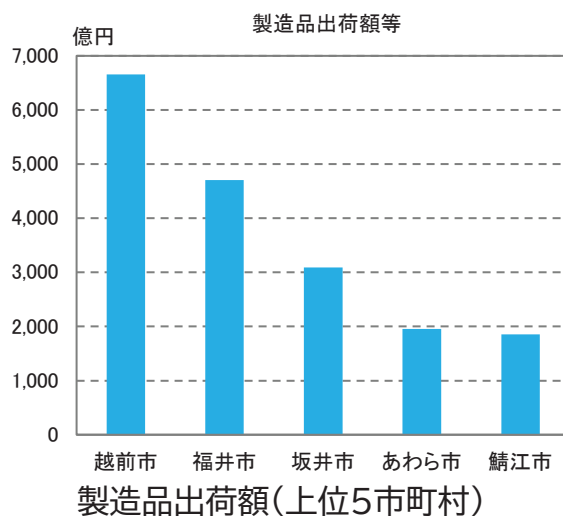
資料：福井県市町勢要覧(令和2年1月)

(4) 産業動態

本市は、製造業が産業別付加価値額の約6割を占めます。また、製造品出荷額等は県内一位で、県全体の3割弱を占め、北陸では富山市に次いで2位、人口一人当たりでは1位となっています。

また、先端技術産業から伝統産業まで、幅広い産業・業種構成となっています。

その中でも、特に「電子・デバイス、輸送用機械、電気機器、プラスチック」の分野では、高度な技術を有し、設計開発力の強い企業で生産された商品の付加価値が高くなっています。



資料：工業統計調査結果(令和元年：福井県)

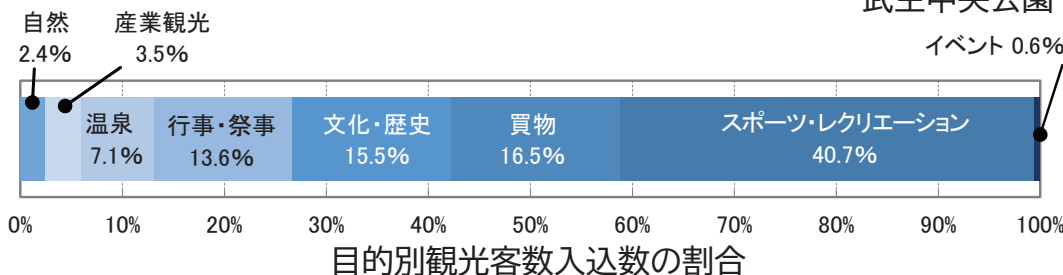
(5) 観光

本市の令和2年度の観光客入込数は約208万人となっており、項目別で見ると、スポーツ・レクリエーションが最も高く、全体の40.7%、次いで買物が16.5%と高くなっています。

また、多数の観光地のうち、特に武生中央公園は、「たけふ菊人形」の会場として、また、老若男女が憩う・遊ぶ・見る・学ぶ・楽しむことのできる場所として市内外から多くの利用客が訪れており、令和2年度の利用者は県内最多で100万人を超えています。



武生中央公園



資料：福井県観光客入込数(令和2年度)